

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取り組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	<p>介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取り組んでください。複数項目でも可）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 潜在的対象者の把握について工夫している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】 《目標》豊中市が考える自立支援の考え方を居宅事業所に周知する 《具体策》ケアマネほっとミニ2ヶ月おきに開催。昨年度から1事業所1名の参加で開催して、自立支援の考え方を伝えていく。また事業所で参加された介護支援専門員から同じ事業所の介護支援専門員に伝達してもらう。</p> <p>【課題】 昨年度から実施して、R5.11月までに25事業所に参加してもらっているがこの会の評価が未実施</p> <p>【改善の方策と次年度の取組み】 ケアマネほっとミニで自立支援の話は継続。これまで通り少人数での参加とするが、今まで参加してもらった、25事業所にも参加してもらい、前回の自立支援の話を受けて、業務に反映することができたかどうかということについての意見交換の会も設けていく事とする。</p>	<p>【取組進捗状況内容】 自立を踏まえた計画の実現のためのアセスメント手法の啓発が行われ25事業所の居宅支援事業所に向けた取り組みが行われています。</p> <p>【特に優れている点】 介護支援専門員が情報交換・情報共有できる場を2ヶ月に1回設け、圏域の居宅支援事業所の底上げ、共通認識を持てるように努められています。</p> <p>【課題】 周知の拡大は行われていますが、成果の確認や認識度の確認には至っていません。制度変更を踏まえ、あるべき共通認識を達成できるよう取組の拡充に期待します。</p>

令和5年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	<p>総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可）</p> <p><input type="checkbox"/>自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>3職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>《目標》様々な課題に対応できる様関係機関との連携を深め、支援者が安心して支援できる体制をつくる。</p> <p>《具体策》・高齢部会各校区で実施。民生委員、社協、介護支援専門員等地域関係者と福祉関係者で事例検討のグループワークを行いながら各々の役割の把握に努めていく。</p> <p>・日頃の業務でもなんでも相談等に積極的に包括が地域に向いて、コミュニケーションを図る事で顔つなぎをし、包括の周知を行う。</p> <p>【課題】</p> <p>支援に困っている原因として8050問題、支援拒否、認知症であることは参加者同意見であった。事例検討でこのケースを挙げ意見交換を行っているが短時間でグループワークで解決が難しい。</p> <p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <p>次年度以降もグループワークでの高齢部会は継続。様々な機関に参加してもらい、多機関との連携を重ねる事でグループワークの内容も深めていき、重層的支援の構築を図る。</p>	<p>【取組進捗状況内容】</p> <p>校区高齢部会を開催し、民生委員を含めた多職種の福祉職・医療職の参加により、情報交換・情報共有が行われています。</p> <p>【特に優れている点】</p> <p>地域の多職種他業種の参加により、顔の見える関係の形成をめぐられています。</p> <p>【課題】</p> <p>課題のある対象者に対しての、さまざまな角度から課題・原因分析し、対応策のスキルアップに期待します。</p>

令和5年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	<p>包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>《目標》 介護支援専門員と顔を合わせて相談できる場を提供する</p> <p>《具体策》 事例検討会を年2回実施。介護支援専門員からの困難事例に対して医師、看護師、社協、介護支援専門員で意見交換しながら助言を行う。</p> <p>・見える事例検討会の開催に向けて今年度ファシリテーター養成講座で2名講座を受け、次年度以降の定期開催に向けて準備を行っていく。</p> <p>【課題】 地域ケア会議に代わる事例検討であり、他事業所からも参加したいという声も聞いている。年2回の開催で、担当者の負担を考慮しながら、回数が増やせるかが課題。</p> <p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <p>今年度同様、介護支援専門員の声もあり地域ケア個別会議に代わるものとして少路では、引き続き今年度実施した事例検討会と少人数でのケアマネほっとは継続しながら、他包括と共同で事例検討会（見え検）を年間計画に入れていく。</p>	<p>【取組進捗状況内容】</p> <p>事例検討の場を年2回開催されており、福祉職・医療職の意見交換の場が設定されています。</p> <p>【特に優れている点】</p> <p>医療職・福祉職など幅広い参加者を募って開催されています。</p> <p>【課題】</p> <p>事例検討について、多方面他職種からの異なる見地を共有し、参加者が活用できる展開、また開催頻度の拡充を期待します。</p>

令和5年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
4	<p>一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可）</p> <p><input type="checkbox"/>地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>《目標》要支援者のはつらつ教室の利用率を上げる</p> <p>《具体策》サービス利用希望者にまずアセスメント支援訪問の活用。</p> <p>地域の社会資源の情報収集のために地域のなんでも相談に包括同席。短期集中サービス後の面談時に通いの場のグループ（現在少路圏域で18グループ運営している）やぐんぐん元気塾の情報提供する。</p> <p>【課題】地域の活動の場に行くための交通手段がない事ではつらつ修了後デイサービスに流れていってしまうケースがある。</p> <p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ教室の利用率は昨年度と比較して上がっている（R4:58%、R5:69%）はつらつ教室利用後に地域資源の案内は行っているが、そこまで行く手段がないと訴える方もおり、送迎があるデイサービスになってしまう。集まりに行けない方はぐんぐん元気塾や通いの場等で行っている豊中パワーアップ体操のDVDの提供をして自宅で取り組んでもらい、モニタリングする。モニタリング時に近隣でのつながりがもてるようにするため人材を広く集めていく。 ・圏域マップの見直しを行い、主に介護支援専門員に提供する。 	<p>【取組進捗状況内容】</p> <p>体力測定会を毎月実施されています。ケアマネジメントBの中で、セルフケアのアセスメントが行われています。</p> <p>【特に優れている点】</p> <p>圏域マップを活用し、選択肢の情報提供につながられています。</p> <p>【課題】</p> <p>目的を明確にした取り組みの拡充に期待します。</p>

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

令和5年度 少路地域包括支援センター

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
5	<p>認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可）</p> <p><input type="checkbox"/> 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>《目標》 認知症カフェの参加人数を増やし、認知症について考える機会を作る</p> <p>《具体策》 介護支援専門員に周知していく必要がある。介護支援専門員から認知症の担当利用者や家族に周知して参加を促す。</p> <p>認知症カフェを2箇所立ち上がっているがオレンジャー（ボランティア）が圏域にいない。</p> <p>認知症サポーター養成講座を開催し、オレンジャーの獲得をめざす</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ参加者が決まったメンバーであり、周知が限定的 <p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員向けに周知していく必要がある。担当利用者で認知症を抱えるご本人、ご家族に認知症カフェを周知していく。 ・オレンジャーの獲得をめざすには認知症サポーター養成講座を各地域で開催。参加者からオレンジャーの希望を募る ・相談業務で関わった方からオレンジャーの意欲のある方を募るようになる。 	<p>【取組進捗状況内容】</p> <p>圏域内2カ所で、毎月あるいは3ヶ月に1回の認知症カフェ開催が行われています。</p> <p>【特に優れている点】</p> <p>認知症サポーター養成講座を開催することによって、認知症カフェボランティアの育成確保をめざされています。</p> <p>【課題】</p> <p>より一層、認知症当事者と家族の参加促進に期待します。</p>